
恋、というもの

園村千香

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋、というもの

【Zマーク】

N4957A

【作者名】

園村千香

【あらすじ】

片思いをしていた。親友に。振られたと追うのは、正しくは無いのかもしれない。勝手に思つて、勝手に、失つた。それでも、貴方の幸せを願うのは、本能でしょつか？

何を言えばいいのか、何を感じればいいのか。

まずは体の端だねって、悪魔が囁いたのと同時に、指の先が動かなくなり、徐々に、腕が動かなくなつた。

左上から、上がつていい、広がり、目が見えなくなり耳が聞こえなくなつた。

声を発しようと喉元を動かせば、もちろん機能せず。なぜこうなつたのかも僕には分りがたい。

慌てることなどしなかつた。

もし、どこぞの悪魔さんがこのまま殺してくれるなら、それは、僕にとつてとてもありがたいことだ。死んでしまいたい。

「つれていつてあげる」

耳じやなく、体に染みる声。

悪魔が次に囁いたのは予想通り天へのお導き。

声が戻る。

「うん」

悪魔に実体はない。ただ、そこにいる。

「でもね」

棒読みとでも言いましょうか、音程の変わらない、不規則な声。

「条件がある」

死ぬことに条件が必要なのか。

「今日、」

思い出したくないことだ。

今日。

「別かれた奴が居ただろ?。振ったのか、振られたのか」

低く笑う声が聞こえる。

「悪趣味だ」

振った振られたの話ではない。付き合つてさえ、いなかつたのだから。

「どちらでもいい、さ。生涯永久。そいつの不幸がほしい」

頬に触れた空氣は冷たい。

「傍にいられなくなつたのだろう」

涙なんて、もう、でないと思つていた。

幼いころから傍に居て、傍に居ることを望まれて。あの人の笑顔さえあれば大抵のものは溝に捨てられた。

「どうした」

付き合つてる人ができたと、とても嬉しそうに微笑んだ人の顔が過ぎる。

「なんでも、ない」

残酷なものだ、友情なんてものは。

傍に、いられなくなつたのではない。自らしたのだ。もう、会わないと。

今日。

「憎しみはあるのだろう?」

それは、それは、何を恨んでいいのか分らないほど。

人の気も知らないあの人も、それを受け止めた自分も。

あの人の横で過ごしているだろう、到底、知りえない男も。

「不幸にしてやう。手に入らないものなど、如何なつてもかまわないだろう?」

「かまわないさ。

痛むのは胸だけだ、この体、捨てるもんならばそんなことを心配する必要もないだろう。

「不幸なんて、どうする?」

気づけば、体全体が動くようになつていた。

腰を上げる。

やはり、悪魔の姿は見えない。

「食べる。美味しいんだ、俺達にとつたら、甘い蜜だ」

人の不幸が、甘い蜜。

「至福だ、快感だ」

ああ、そうか、ならば。

「不幸なのはあなたですね」

自分の不幸に目もくれず、人の不幸ばかり眺めていたのだろう。
なぜだろう、酷く、可笑しい。

「

真つ暗な寝室の電気をつける。

涙が乾いた頬が緩む。

「死にませんよ、サヨウナラ」

無謀なやり取りだったかもしれない。こんなものは。

小さな舌打ちをして、悪魔は消えた。

残つたものは、あの人で埋め尽くされた着信履歴。

今だ震えながら青く光るライトが、胸を締め付けるように、痛い。

「早く、早く、消えてくれ」

ただ、今は、祈るだけだ。

貴方が幸せであるように、と。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4957a/>

恋、というもの

2010年10月28日06時06分発行